馬嶋家文庫目録について

馬嶋家に所蔵されていた書籍類は馬嶋家資料とともに平成14年に高遠町図書館に寄贈されました。

馬嶋家の祖先は、眼病治療で名高い尾張国馬嶋村明眼院（現愛知県大治町）で医術を身につけたといわれています。眼科医として松本藩水野家に勤仕していましたが、享保１０年に水野忠恒が改易となったために一時浪人となります。その後享保１３年、高遠藩主内藤頼郷の時に高遠藩に抱えられ、眼科医として勤仕することになりました。その子孫が代々高遠の眼科医とし勤仕し、て廃藩後も昭和の時代までこの地で開業し、眼科のみならず総ての病気に対応できる家庭医として、町民の信頼を集めた医家でした。初代柳泉は、俳諧も得意で号を『臨江』、俳号を『又玄』、字を『土江』といって、高遠藩上級武士の俳諧誌「山窓記」などにもその作品が多く載せられています。また、四代柳軒は『常春園』を名乗り、五代柳一郎は『樂齋』、六代利男は『晩成堂』と、代々歌俳諧謡曲など趣味も広く、好学の精神が受け継がれてきたことが窺えます。寄贈された書籍のなかでも、452 点、900 冊余に及ぶ写本は、数はもちろんその内容の多彩さにも驚かされます。古典文学や物語、伝記や軍記などの他、歌俳諧に関するものや、謡曲は本はもちろん、テーマ別に新聞等の記事の抜書きしたものや、記録などもあります。中でも、この地方に関係するものとして、阪本天山著作の「紀南遊嚢」や、星野常富の「武學拾粋２巻」「高遠記集成２巻」又、中村元恒著作の「尚友録」「尚武論」等の他、「西高遠町村誌」「東高遠町村誌（旧高遠城の図あり）」や「若宮権現旧記」「鉾持三社縁記」など資料的にも興味深いものが多数含まれています。

高遠藩時代からの系図

初代　柳泉（臨江、又玄、土江）	二代　啜江
三代　柳淵	四代　柳軒（常春園）
五代　柳一郎（樂齋　常春園）	六代　利男　（晩成堂）
七代　律司	八代　昭三

（高遠町誌・人物篇による）

写本の多くは「馬嶋柳一郎（樂齋）」「常春園」の印印があり、用紙は「常春園」と印刷されたものが多く使用されていました。江戸末期から明治時代にかかれたものと思われます。

（平成１７年３月　高遠町図書館）